

2022年度第1回プロジェクト評価委員会 議事抄録

日時：2022年6月13日（月）13:00～16:25

場所：ZoomによるWeb会議

出席者（敬称略）：

委員：麻生、大西、川端、小杉、齋藤（委員長）、清水、戸谷、満田、山崎（副委員長）、
米倉、吉田、渡邊

その他：立松（JVN評価コーディネータ）

オブザーバ：事務局（川島、斎藤（総務課総務係）、堀（研究評価支援室））

【議 題】

1. 前回議事抄録の確認
2. 2021年度プロジェクト評価について（実施報告、評価報告書（案）の審議、「意見書」の検討）
3. 2022年度プロジェクト評価について（評価対象プロジェクトの報告）
4. プロジェクト評価委員会規則の一部改正について
5. その他

【配付資料】

資料1	2021年度第2回プロジェクト評価委員会 議事抄録
資料2-1	ハワイ観測所評価報告書（案）
資料2-2	先端技術センター評価報告書（案）
資料2-3	光赤外天文学研究教育ネットワーク事業(OISTER)評価報告書（案）
資料2-3-1	OISTER評価報告書（付録1）
資料2-3-2	OISTER評価報告書（付録2）
資料2-3-3	OISTER評価報告書（付録3）
資料2-4	国内VLBIネットワーク事業（JVN）評価報告書（案）
資料2-4-1	JVN評価報告書（付録1）
資料2-4-2	JVN評価報告書（付録2）
資料2-5	2021年度プロジェクト評価に対する感想・意見、今後のプロジェクト評価への要望（改善策）
資料3	2022年度プロジェクト評価関係資料
資料4	プロジェクト評価委員会規則の一部改正について
参考資料1	国立天文台プロジェクト評価委員会名簿(2022年4月1日時点)
参考資料2	プロジェクト評価の考え方、プロジェクト評価委員会の役割とプロジェクト評価の進め方

【議 事】

議題に先立ち、齋藤委員長より、国立天文台プロジェクト評価委員会（以下、本委員会）

規則に基づき、今回は吉田 副台長（総務担当）が委員として出席しており、評価作業部会構成員（不参加）も新規となった旨、説明があった（参考資料1）。また、齋藤委員長からの依頼により、立松JVN評価コーディネータ（野辺山宇宙電波観測所）が出席している旨、説明があった。

1. 前回議事抄録の確認

2021年9月6日に開催した前回会合の議事抄録（資料1）について、齋藤委員長より、メール審議による確認は終了しており、会議中に特段の意見がなければこのままとする旨、説明があった。（注：国立天文台ホームページ¹にて公開されている）。

2. 2021年度プロジェクト評価について（実施報告、評価報告書（案）の審議、「意見書」の検討）

外部評価委員会（EEC）により昨年度実施された4件のプロジェクト評価について、EEC委員を兼任された本委員会・台外委員4名より概要説明があり、続いて各評価報告書（案）の内容が審議された。なお、利益相反を避けるため、齋藤委員長からの依頼により、評価対象プロジェクトの構成員を兼ねる委員には、各所属プロジェクトの審議中は待機室（zoom）にて待機いただいた。

1）ハワイ観測所評価報告書（案）

資料2-1に基づき、川端委員から評価活動・評価結果の概要説明後、審議を行った。

●主な意見、質疑応答より：

- ・外国機関からの委員もいることから、EECの議論で一番力が入ったのは、日本の予算体系（単年度予算）において、「すばる2」計画の人的・予算的部分の安定的配置をどう実現できるか、であった。
- ・Recommendationは、すばる望遠鏡と同クラスの望遠鏡の運用に関わったEEC委員からみた意見をもとに、無理のない、検討に値するものを挙げている。

○国立天文台への意見：

- ・すばる望遠鏡の長期的な持続可能性（現パフォーマンスを今後も維持できるか）に懸念を感じる。同クラス望遠鏡との比較等から、すばる望遠鏡が抱える構造的問題（ランニングコストやDay Crew・テクニシヤンの確保等）を明確にできると思う。
- ・観測装置の世代交代はこれまで問題なく進められてきた。今後、「すばる2」計画で予定されている観測装置の削減（decommission）では、ユーザやコミュニティとの十分な議論、意見交換が必要である。
- ・Recommendationの整理、確認が必要。ハワイ観測所で対応できること、国立天文台全体、コミュニティ全体で考えることを仕分けて整理し、実現可能性を見極める。

2）先端技術センター（ATC）評価報告書（案）

資料2-2に基づき、清水委員から評価活動・評価結果の概要説明後、審議を行った。

¹ <https://www.nao.ac.jp/recommend/project-review-committee/>

●主な意見、質疑応答より：

- ・ 報告書冒頭に、ATCの具体的なゴールとその達成基準について説明があると良い。
- ・ ATCがシステム設計の力量不足を自覚し、改善する試行を始めた点をEECは評価する。

○国立天文台への意見：

- ・ ATCだけでなく、日本の天文学分野全体の問題として、装置開発の学生が少ない、博士課程まで人材が残らない。装置開発を担う学生を増やすため、国立天文台全体でアクションを検討してほしい。(例：充実した大学院教育が受けられるATCの環境を多様な大学・工学分野へ宣伝する、大学とATCの共同開発を推進する、装置開発の学生を金銭的に支援する、装置開発の学生が評価されるしくみを検討する。)
- ・ ATCの力をさらに伸ばすために、人的リソース不足（クリーンルーム担当者、エンジニアリングスタッフ）への対策を検討すべきである。

3) 光赤外天文学研究教育ネットワーク事業(OISTER)評価報告書（案）

資料2－3に基づき、米倉委員から評価活動・評価結果の概要説明後、審議を行った。

●主な意見、質疑応答より：

- ・ OISTERスタッフの雇用に関するrecommendationについて、意味を明確にしてほしい。
- ・ Recommendationが多岐にわたる。それぞれの重要度や対象がわかると良い。
- ・ 評価の一環として、OISTERに参加した学生へ広くアンケートを取ったねらいとアウトカムは何か。OISTERに関する学生全員の率直な意見を知るために実施した。自由記述欄はインタビュー対象者の選定に利用し、recommendationにもつながった。

4) 国内VLBIネットワーク事業(JVN)評価報告書（案）

資料2－4に基づき、大西委員から評価活動・評価結果の概要説明後、審議を行った。

●主な意見、質疑応答より：

- ・ JVNの今後の科学目標に関するrecommendationについて、(NOTEで)補足すると良い。
- ・ EECでは、評価の観点2つ（科学研究成果を挙げる、教育活動への貢献）以外に、JVNの運用、受信機開発、望遠鏡保守に関してもJVNと議論した。JVNをより魅力的にするため、(JVNの一部である)VERA望遠鏡を使ったサイエンスをJVNに検討してほしい。

5) 全体を通した意見

2021年度プロジェクト評価に対する感想・意見、今後への要望について、関係者より事前にいただいた意見（資料2－5）の紹介があった。改善、検討すべき点については次期プロジェクト評価委員長へ引き継ぐ。

●次回以降に改善・検討すべき点：(→ は齋藤委員長からの対応策)

- ・ 評価報告書（案）は会議前に余裕をもって展開すべき。事前に内容を読まずに全体を議論するのは困難。→ 委員会後にあらためて意見を集め、メール審議でまとめる。
- ・ 評価スケジュールが非常にタイトだった。委員の任期に合わせて事務局が評価を急かす形となったが、もっと余裕を持って十分にレビューする観点が重要である。
- ・ 3月に終了するプロジェクトの評価を行い、(6月にまとまる)評価結果がどのように活用されるかわからなかった。評価の実施時期を検討すべき。
- ・ 「プロジェクト評価の考え方・進め方」(参考資料2)に沿って、EEC主査の人選をEECに

任せると、(初見の人も多く)時間がかかる。本委員会で選んではどうか。

- ・本委員会の台外委員としてEEC委員を兼任したが、どういう立場で対応したらよいかわからなかった。→ EEC委員として中立・客観的に見ていただくと同時に、必要に応じて本委員会での議論を説明するブリッジ役も期待したい。
- ・評価コーディネータとしての立場が難しかった。国立天文台の意向が評価に入らないよう、なるべくコミットを控えた。事務局との役割分担も明確化するとよい。
- ・タイムゾーンが異なる複数の国をオンラインでつないで議論した。参加しやすいメリットもあるが、深夜・早朝の参加を余儀なくされたEEC委員もいた。

○良かった点

- ・外国機関からのEEC委員の選定が適切で、スムーズに無駄なく議論が進んだ。
- ・本委員会の台外委員がEEC副査となり、外国機関の主査を支援いただけて助かった。
- ・EEC委員を務め、評価を通して対象プロジェクトの理解が深まり、有益であった。

3. 2022年度プロジェクト評価について(評価対象プロジェクトの報告)

齋藤委員長より、2022年度プロジェクト評価対象2つ(科学研究部²、天文シミュレーションプロジェクト³)について説明があった(資料3)。次期プロジェクト評価委員会および外部評価委員会が評価を実施する。

4. プロジェクト評価委員会規則の一部改正について

齋藤委員長より、資料4に沿って、国立天文台プロジェクト評価委員会規則の一部改正について説明があった。本委員会で取りまとめた「プロジェクト評価の考え方・進め方」(参考資料2)に基づく、2021年度プロジェクト評価の実施状況を踏まえ、現在の規則では不整合となる点を修正する。改正点について委員から過半数の賛成を得たため、台内手続きを進め、運営会議に報告することとなった。

5. その他

齋藤委員長より、議題2の審議を踏まえ、本委員会から各EECへ伝える評価報告書(案)の修正提案と、国立天文台へ提出する意見を確認した。委員への共有が遅れた評価報告書(案)については、委員会後にあらためてメールで意見を募ることとした。また、国立天文台への意見は、本委員会から台長へ答申する「意見書」として、メール審議のうえ事務局でまとめることとした。この進め方について、委員から過半数の賛成を得た。評価報告書(確定版)の提出期限は、6月30日を目途とすることを確認した。

最後に、齋藤委員長から全委員へ、一年半にわたる議論の後取りまとめた新たな評価方針のもとで、最初のプロジェクト評価を実施できたことへの御礼があり、引き続き、メール審議への協力が依頼された。

以上

² 科学研究部 <https://sci.nao.ac.jp/main/>

³ 天文シミュレーションプロジェクト <https://www.cfca.nao.ac.jp/>